

平成 21 年度 「決算認定」 一般会計だけが認定されず？

第3回9月定例議会の予算決算特別委員会におきまして、平成22年度補正予算審査は可決され、平成21年度「すべての会計に対する決算認定」の審査も行われました。決算認定では一般会計だけが継続審査となりましたが、其の他の会計決算はすべて認定されました。決算審査意見書に添付されました市監査委員の「むすび」の文章から抜粋と「決算参考資料」にある一部を掲載しまして、今回の報告とさせていただきます。

志摩市の平成21年度、実質単年度収支が3年ぶりに6億2,018万円の黒字となり、財政調整基金においても10億9,625万円となった。これは、国の緊急経済対策である「地域活性化・生活対策臨時交付金」にかかる事業が実施されたことと、国の補正予算において「地域活性化・経済危機対策臨時交付金」等の補助金事業を実施したために臨時的な一般財源が多くなったことが原因である。しかし、国からの「臨時交付金」等はあくまでも臨時的なものであり、本来の財源は余裕のない厳しい財政状況であることに変わりはなく、景気後退の影響から税収入が減る状況のなかで、今年度のような決算状況は見込みにくく、今後の動向を注意深く見守る必要がある。

一般会計における歳入総額は257億9,682万円で、自主財源85億3,630万円(33.1%)に対し、依存財源は172億6,052万円(66.9%)であり、前年度と比較して依存度が高まっている。

徴収率の推移は、平成19年度から上昇に転じていたが、前年度と比較すると少し下がった。県内、市町の平均値と比較すると15.4ポイントの差があり、まだまだ低い水準である。徴収率向上の意義は「税の公平性の確保」と「自主財源の確保」にあるため、その実現に向けて最大限の努力をされたい。

不納欠損処分は、前年度と比較すると減っているが「負担の公平性の確保」や「歳入の安定的確保」への影響が大きく、慎重かつ厳正に欠損に至るまでの的確な処理を望むものである。

歳出については、一般会計から他会計への繰出金が、特別会計の合計21億543万円、企業会計の合計6億2,956万円で繰出総額は27億9,799万円となり、一般会計歳出の11.1%を占め、依然として高い水準にあり一般会計を大きく圧迫している。

人件費では、前年比3億1,130万円削減されて49億7,355万円になった。経費の削減について、今以上の効果を図るためには思い切った行財政改革が必要と考える。

財政指標の推移で、経常収支比率や公債費比率は年々悪化傾向にあったが、両指数ともわずかに改善した。これは、国の支出金や地方交付税等の歳入が増加したため、一般財源等と標準財政規模も増加したことによるものである。しかし、実質公債費比率は12.6%で、平成20年度全国平均の11.8%と比べるとやや高いものの全国平均並で、市の資金繰り悪化の原因は公債費が多いことによるものではないことを示している。

特別会計では、それぞれ8会計の収支がともに黒字で歳入歳出差引残額の総額は4億4,551万円であった。

企業会計では、水道事業は純利益を上げているが、下水道事業、病院事業ともに純損失を出している。特に病院事業の当年度純損失は5億1,766万円となり、一般会計から多額の繰入を毎年行わない限り、病院経営の維持は難しい状況が続いている。

志摩市では、財政健全化を実現するために、根本的に現在の行政のあり方を見直す必要があることから「志摩市財政健全化アクションプログラム」を策定した。今後はこの計画に基づき、健全化を実現するために具体的な取組みを着実に実施し、将来にわたって持続可能で安定した財政基盤を構築するように要望する。などが監査委員の審査意見の内容でありました。



議会審議中

市税徴収率の推移

区分	年度	平成 21 年度		平成 20 年度		平成 19 年度	
		志摩市	県平均値	志摩市	県平均値	志摩市	県平均値
徴収率	現年度分 滞納分含む	76.9%	92.3%	77.0%	92.3%	74.6%	92.1%
	うち現年度分では	95.3%	97.8%	95.1%	97.8%	94.6%	97.8%

財政分析指標

区分	年度	平成 21 年度	平成 20 年度	平成 19 年度
標準財政規模		159億7,294万円	154億5,847万円	144億 229万円
基準財政需要額		112億5,064万円	110億3,104万円	107億7,760万円
基準財政収入額		54億2,539万円	56億3,733万円	56億9,041万円
財政力指数		0.50%	0.52%	0.52%
公債費比率		13.0%	14.0%	14.3%
実質収支比率		3.07%	3.04%	2.24%
経常収支比率		88.7%	91.6%	92.7%
実質公債費比率		12.6%	12.3%	11.6%

収入未済額の推移

区分	年度	平成 21 年度	平成 20 年度	平成 19 年度
一般会計		16億8,788万円	17億9,366万円	18億8,265万円
特別会計		9億3,014万円	8億8,871万円	8億6,312万円
企業会計		4億5,550万円	4億7,815万円	5億4,859万円
浜島財産区会計		3,552万円	3,250万円	2,948万円
合計		31億905万円	31億9,304万円	33億2,385万円

不納欠損額の推移

区分	年度	平成 21 年度	平成 20 年度	平成 19 年度
一般会計		1億6,301万円	1億6,661万円	2億5,832万円
特別会計		1,859万円	2,469万円	6,252万円
企業会計		0円	4,754万円	220万円
合計		1億8,161万円	2億3,885万円	3億2,305万円

平成21年度 会計別起債残高

会計別	平成 21 年度末起債残高
一般会計	279億6,363万円
特別会計	43億4,093万円
企業会計	58億 903万円
鳥羽志勢広域連合(うち志摩市分)	21億4,649万円
志摩広域消防組合(うち志摩市分)	1億5,237万円
志摩広域行政組合(うち志摩市分)	2億2,536万円
伊勢地域農業共済事業組合(うち志摩市分)	0円
起債総残高合計	406億3,783万円

※起債とは、これまでの事業で使った借財資金のことで一般の家庭でいう借金のことです。

市民一人当たりの起債残高 = $\frac{406 \text{ 億 } 3,783 \text{ 万円}}{\text{志摩市人口 } 57,871 \text{ 人}} = 70 \text{ 万 } 2,214 \text{ 円}$ です。

平成21年度 歳入歳出決算のポイント!

- ① プラス面 ・実質単年度収支が3年ぶりに黒字 +6,2 億円
- ② プラス面 ・経常収支比率が改善した 88.7 %
- ③ マイナス面 ・市税収入が前年度比較で減額 -4,3 億円

「代表監査委員」から求められた今後の課題

- ① 大口市長のビジョンである「志摩市再起動」「稼げるまちづくり」の成長戦略に力を入れること。
- ② 自主財源確保のためには、市税の増収が喫緊の課題である。
- ③ 行財政改革計画を策定し、中・長期財政計画を立て目標を設定すること。